NCLP スクール　モニタリングレポート 2022

NPO 法人 IMAGINUS

実施期間：2023 年 3 月

NCLP スクール訪問

学校名	Siksha Bikash Kendra
基礎情報	・1 週間に 2 回 LIFE EXPERIENCE の授業 ・child labor area ウェストピッカー*として働く子どももいる。*ごみ収集 ・10%NCLP / 85%public school / 5%child labor ・2 週間に 1 回の parents meeting(教育の重要性と encouragement to go to school、衛生面のことについても) ・学校の衛生環境は整えていて、生徒一人ひとりの衛生のチェックも行っている ・今必要なこと：ファンが機能しないから、夏になると非常に暑い。マットレスの環境が良くない、遊び道具や新しいノートブックが不足している ・授業の中で子どもが少しでもプレッシャーを感じてしまうとすぐに学校に来なくなってしまう ・学校のすぐ裏にある川は生活に使用されている。（シャワー、洗濯等）しかし、ゴミの放棄がひどく、衛生環境が問題あり。
所感	授業に対する生徒と教師の向き合う姿勢は、昨日訪問をさせていただいた学校よりも良いという印象を受けた。しかし、この学校では全学年の生徒がひとつの教室で同じ授業を受けるという授業のスタイルであったため、高学年の生徒は積極的に反応があるものの、幼い生徒の中には授業についていくのが難しいと感じている生徒もいるように感じた。
家庭訪問	学校へ通う生徒の家 5 軒（2 世帯が一緒に住んでいるところ× 2 回、1 軒×1 回） 1 世帯目：子どもが 3 人いて、最年少の男の子が NCLP スクール、長女が公立の学校へ通う。母親の仕事は、industrial workers への食事の準備。 ・もし NCLP スクールがなかったら

	学校が近くにない場合、仕事もあるので子どもを送ることが難しい。長女は歩いて４０分くらいのところにある女子公立学校に通っているが、男子校はもっと遠いのと、経済的に考えても全員を公立の学校へと送ることが厳しい。そのため、もし NCLP スクールが閉校した場合、男の子を学校に通わせることができなくなり、child labor や bad activities に参加してしまう可能性がある。 ・コロナ禍の子どもの様子について コロナ禍は、工場が開いていない関係でお母さんの仕事もストップしたため、子どもたちは家で遊んでいるだけだった。 ・NCLP スクールの重要性について 子どもの将来に教育はとっても大切なのにもかかわらず、NCLP スクールが閉校してしまったら学校へ通わせることができなくなる。だからこそ、NCLP スクールをすごく重要だと認識している。 2 世帯目：2 世帯共同で生活をしている家。それぞれ 3 人、2 人が NCLP スクールに通っている。 ・もし NCLP スクールがなかったら ただ遊んでいるかハウスワークに参加するか、もしくは児童労働になるか。お金の余裕がなく、公立の学校にひとりで行かせるわけには行かないため、NCLP が今なくなったとしても公立の学校に通わせると言う選択肢は考えにくい。 ・NCLP スクールが終わった後について 13 歳になったタイミングで公立の学校に通わせようと計画をしている。 ・NCLP スクールに子どもを通わせようと思った理由について 子どもたちにしっかり教育を受けてほしい。教師と顔のみえる関係を構築できているため、スクールに安心して送ることができている。 ・子どもの NCLP スクールへのモチベーションについて 「いつか学校が閉まってしまうんじゃないか」という気持ちもあり、朝起きてすぐ家の玄関から学校が今日もやっているかを毎日確認していて、開いているのがわかるとすごく嬉しそうに準備を始める。文字の読み書きができない母親に対して、学校で学んだことを生かして母親に名前の書き方を教えている。 3 世帯目：２軒合わせて合計 3 人の子が NCLP スクールに通っている。 ・NCLP スクールに通っている理由について 教育がなかったら子どもの将来が崩壊してしまうから。（教育の重要性を認識している） お金がないから、遠くの公立学校へまで通わせることができないから。 ・もしスクールがなかったら 周辺をぶらぶらしたり、遊んで 1 日を過ごすことになる。 ・NCLP スクールを終えた後について（13 歳～） 現状公立の学校へ通わせる予定。 ・子どもの NCLP スクールへのモチベーション

	知り合いからもらった公立学校のユニフォームを NCLP スクールに着て行っている。（学校をとっても楽しみにしている）
所感	経済的、環境的な要因で公立学校へ通うことは現実的に厳しいと考えている人が大半で、このコミュニティの子どもたちの多くは NCLP スクールがなければ教育を受けることができていない。また、多くの子どもが高いモチベーションを持って NCLP スクールの教育に向き合っており、親も教育の重要性を認識した上で NCLP スクール終了後については、公立学校への編入を検討している方が多い。したがって、NCLP スクールの bridge education としての役割も現状果たすことができていると考えることが可能である。

学校名	Naba Disha
基礎情報	・１校目と比較して、生徒に寄り添った授業がおこなわれている。 ・8;30－9:00 学校スタート、11:00-11:30 学校終了 ・教材の使用状況:1 週間に 4 回程度 ・公立学校への編入:2022－2023、8 人

家庭訪問	Naba Disha に通う子どものお宅へホームビジット、インタビュー 〇対象 ①1 人の子ども（女の子）がいる親 ②3 人の子どもがいる親 ③1 人の子ども（男の子）がいる親 ④1 人の子ども（女の子）がいる親 〇NCLP スクールがなかったら ・家に滞在しているだけ。お金がないから公立学校へ通わせることができない。 ・女の子だから、外に 1 人で遊ばせるのは危険だから、家で滞在しているだけになる ・公立学校へ通わせる余裕はないため、NCLP スクールがなくなれば自分の子どもは一生教育を受けることができない。 〇もし今 NCLP スクールが閉校したら ・適切なドキュメントや ID を入手することができないのと経済的な余裕がないのが理由で公立学校へは通わせることが難しい。 〇教育自体と NCLP スクールの重要性に対しての認識について ・良い教育を受けることが子どものより良い将来につながるからこそ、他に選択肢のない状況で、NCLP は必要不可欠な状況である ・NCLP スクールがなければ教育を受ける機会を失うことになる。 ・親は 1 日働きに出るため、1 日中子どもを放置していると安全面でも不安が大きいが、スクールが開校しているおかげで安心して仕事へ向かうことができている。 ・NCLP スクールに行かなければ、家に滞在をするか働くかの選択肢しかないのと、子どもの将来への期待の意味も込めて学校へ通わせている。
所感	NCLP スクールが地域コミュニティの子どもたちや彼らの親にとって非常に重要な存在となっていることが見受けられた。経済的問題や教育のレベルの問題と並行して、公立学校へのアクセスのしづらさや、それとは反対に地域コミュニティの中にあるという NCLP スクールの立地の良さが彼らにとっては重要な要素であるように感じた。 また、今回ホームビジットをさせていただいたどの家庭の親も、教育と NCLP スクールに対して非常に重要であるという認識を抱いていたのが印象的だった。

学校名	Jagriti New Jarpaiguri Station ＊当校は NJP 駅に隣接して運営する保護シェルター内で行っている学校
基礎情報	・提供している授業の教科は英語・ベンガル語・算数・詩 ・今月は 66 人の登録があるが、この日シェルターを訪問していたのは、１２時時点で 3 人、その後数人来ては出て行くを繰り返し、昼食時には 10－15 人程度が来ていた。 ・幼い頃、男児向けのシェルターで育ち、現在はこのシェルターの運営のアシスタントとして働いている方がいた。 →教育をシェルターで受けたことにより、ライフスキルが身につき、ものの善悪の認識をしっかりと行うことができるようになったことで、盗みを一切しなくなり、シェルターのアシスタントとして雇用するまでの信頼関係を構築できるようになった。 ・それぞれの生徒の能力を先生が理解をしているため、それに合わせたカリキュラムをそれぞれの生徒に提供している。 ・初めてシェルターを訪問する子どもが来た時には、初めにチョークを持たせて、「なんでもいいから書いてみて」と書かせる。→その子どもの現状の能力の把握を行い、それに合わせたカリキュラムの設定を行う。 ・教師研修は NCLP スクールの先生とともに行う。研修では互いに授業を実践して、フィードバックを行う。
所感	物乞いをしている子どもたちに、そして子どもたちの親に教育の重要性を認知してもらうために、このような拘束時間が決まっていない、ふらっと立ち寄ることができる教育施設の存在は非常に重要である。物乞いとして触れた時とシェルターで関わった時の子どもの表情の違いが印象的だった。

NGO スタッフへの聞き取り

〇T さんへの質問

・NCLP スクール＝bridge education(公立高校への橋渡しの役割を担う教育機関)

・公立の学校と比較して、いろいろな家庭環境や性格の生徒がいる。教師は柔軟な対応が求められるため、それが難しい。

・日本とインドの NGO が協力しあうことによって、支援がより持続可能なものになっている。

・文化をシェアできることもメリットの一つ。

・インドの教育の問題点：人口増加が引き起こす、先生の不足。

教師 1 人あたりが受け持つ生徒が増加することにより、一人一人に向けた教育を提供することが難しくなり、結果として教育を受けているものの、教育のベネフィットをきちんと受け取ることができている生徒とできていない生徒が発生する。

以上